

平成29年9月5日開催の部長会議の報告をします。

部長会議報告書

平成29年9月5日(火)

3階第2会議室9:15～

1. 議題・課題等提案

(1) 教育委員会

- ・教育部長から資料に基づいて説明
- ・小中一貫教育の推進について、教育委員会の課題認識と今後についての考え方は、説明があったとおりだが、まちづくり推進課の考え方も言ってもらった方がよい。(市長)
- ・まず、住民の皆さんとの合意形成が重要なので、教育委員会と合同で住民説明会に入っている。丁寧な説明を心掛けて、理解を得ていきたい。

また、学校の教師や保護者、ボランティアや自治会の方々等の関係者との合意形成が今後の課題となる。そこは、ワークショップ方式を用いて、合意形成を図っていく。

そして、市だけで計画を作っていくのではなく、行きたくなる学校はどんなものかなどについて意見を出し合い、皆さんで作っていくということが大事である。(統括監)

- ・多度地区における小中一貫多機能複合化事業と小中一貫教育の推進は、あわせて進めていかなければならないが、説明にもあったように、桑名地区の小学校でも児童数が減少しているところがあるので、小中一貫教育の推進についてもスケジュール感を持って進める必要がある。

児童数の減少は、地域の疲弊につながる。ソフト事業である小中一貫教育の推進について、先に道筋を付ければ、おのずとハード事業である小中一貫多機能複合化事業でも、地域の住民からいろいろ意見が出てくるのではないか。(上下水道事業管理者)

⇒世の中の変化に伴って、教育も変わるんだということを皆さんに認識してもらう必要がある。世界に向けてどういう人材を出していこうかというときに、10人くらいの学級で授業を受けているのは、後れを取っていることになる。最低でも25人から30人は必要ということを理解してもらわなければいけない。その中で、基本的には中学校区単位で、施設分離型の小中一貫教育もあるので、分散進学の解消を図りながら進めていくという考え方。多度地区でモデルとして行った知見を次に生かせるはずである。

(教育長)

- ・詳しい説明を聞くと分かってくるが、資料に書いてあることを見せるだけでは、小中一貫教育の必要性の訴えが弱い。答申が出たから行う訳ではないので、今言われた教育環境の変化といった、重層的な理由を示すことが必要。(市長)

⇒答申がハード面の内容を中心として出てきているので、子どもたちをどう育てていくのかというビジョン、教育理念といったものを訴えていかなければいけない。(教育長)

- ・なぜ小中一貫教育が必要になってきたかという経緯と、その上での小中一貫校なんだというあたりを示していきたい。(統括監)

- ・多度には優秀で熱心な教員のOBがみえるので、その方々と意見交換を深めていけたら、地元の住民はその人たちに先導されて、いい方向に向かうような印象がある。（多度町総合支所長）
- ・これから進めていく説明会では、地域の皆さんに何を伝えたいのか、あるいは知ってもらいたいことは何かということがよく分かるようなお知らせや、より多くの方に関心を持ってもらい、参加してもらえりような説明会の案内を工夫してもらいたい。（水谷副市長）

2. その他

(1) サウンディング型市場調査の運用方針について（市長公室）

- ・市有地や公有財産の有効活用に向けた検討に当たり、活用方法について民間事業者等から広く意見を求め、対話を通じて市場性等を調査する「サウンディング型市場調査」の運用方針を別紙資料のとおり作成したので、ご留意をお願いしたい。後日、各課の行革推進員を対象に説明会を開催する予定である。

(2) その他

- ・8月にフランスで行われたレスリングの世界選手権、男子フリースタイル57kg級で、桑名市出身の高橋侑希選手が優勝した。日本人選手としては36年ぶりの快挙であり、市のスポーツ振興を図るため、スポーツ親善大使に就任していただくことになった。9月7日（木）に市長への表敬訪問と就任式があるが、桑名市への凱旋でもあることから、花束贈呈や職員による出迎えと拍手を考えている。その際はご協力をお願いしたい。（市民生活部長）